

LETTER

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1 ページ GraSPP Student Council Activities
- 2 ページ GraSPP Alumni & Students Day 2022 開催報告
- 3 ページ 学生インタビュー
- 4 ページ 「開発研究」の20年(佐藤仁教授) / TOPICS

GraSPP Student Council Activities



Student Council members with Dean Iida and Prof. Nishizawa

With the commencement of the autumn semester, we began our work as the GraSPP Student Council 2022/23. Finally, after more than two years of the pandemic, most students were able to return to campus. We accommodated the new hybrid campus life as well, organizing our events online and offline.

To give all students the opportunity to network at the beginning of the semester, we hosted an orientation event online in September. We were able to build on the great work of the previous generations of Student Council: we again organized a peer mentoring system where second-year master's students could sign up to be a go-to person for new students. Furthermore, we revised the Student Guide to keep all information as up-to-date as possible for the upcoming academic year.

In October 22, we hosted the Students & Alumni Day in conjunction with Professor Nishizawa and the GraSPP Office in a hybrid form. It was great to get to talk with graduates from past years, and it became especially clear here that GraSPP is not only a place of learning but also functions beyond studies as a network all over the world.

To also fully embrace offline student life, we organized an in-person social event. During a beautiful weekend fall day, we all got together for a big picnic in Yoyogi Park. Furthermore, we hosted a movie night in the Student Lounge. To ring in the new year together, we held a games night, with board games as well as video games.

It is great to see the campus so alive again. We really enjoy the interaction with the students and plan to organize many networking events in the coming semester. In the semester break as well, we will continue to be available via social media, email, and on-site to answer students' questions.



Events organized this semester

GraSPP Alumni & Students Day 2022 開催報告

2022年10月15日、土曜夜にハイブリッド開催したGraSPP Alumni & Students Day 2022には国内外から100人以上のGraSPPersが参加しました。同窓生同士が再会し、在校生や教職員と親睦を深めた様子を報告します。



ハイブリッド全体セッションのあとで

「1092日。これほど長い期間、最後に対面で集まってから待ちました。過去2年、オンライン開催でつながってきたことで、GASD 2022はオンラインと対面のメリットを最大限に生かすことができました。多くの参加者が直接会って交流し、ハイブリッドゆえに世界中の修了生も参加しました。今回初めて、デリー、ベルリン、そしてロンドンの各地で修了生が集まって、東京の参加者たちとつながりました。What a great event!」
サンディーブ(サン)ラジュゴバル GraSPP同窓会会長(2015年修了)



日本語のハイブリッドセッション(上)、英語のハイブリッドセッション(下)

「GraSPP龍岡会インド・ニューデリー支部始動！2021年4月からインドに駐在しています。GraSPP龍岡会インド・ニューデリー支部では私を含めたGraSPP修了生4人(インド人2人、日本人2人)が定期的に集まっています。10月15日には私の自宅に集合してオンラインで参加しました。GraSPP関係者の皆さん、ニューデリーにお越しの際は是非お声かけください〜！」

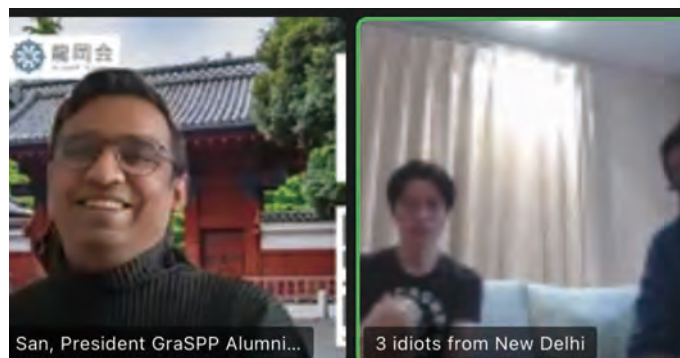
日野薫郎 前GraSPP同窓会会長(2013年修了)

「日本語セッションの進行を務めさせていただきました。拙いところがありつつも、とても反応の良い皆さんと同窓会進行役の森田さんに支えられ、なんとかやり遂げました。皆さんにとって普段は接する機会がない方々との良き交流の場、あるいは再会の場となったのであれば幸いです。今回の学びを来年の進行役に引き継ぎ、より良いGASDにしていきたいと思います。」

佐々木智教 学生自治会委員(経済政策コース)

「2007年に始まったGraSPPホームカミングデイは16年目を迎えました。新型コロナウイルスのため2020年と2021年はオンライン開催でしたが、今回は、ハイブリッドに初挑戦しました。世界中のどこにいても参加できる環境となり、修了生は旧友と再会し、新しい出会いの機会を得て、母校とのつながりを再発見してくれたと思います。次回も皆さんに会えるのを楽しみにしています。2023年のホームカミングデイは10月21日(土)開催です！」

木村恵美 公共政策大学院同窓会担当



ベルリンとニューデリーからオンライン参加



対面でのチャットセッション

学生 インタビュー

第38回

遠藤 結万 さん 公共管理コース 2年



—会社経営と大学院の両立をされていますね

大学卒業後、Google Japanで中小企業向けの広告コンサルや検索・分析の仕事をしていました。いつか起業したいと思っていたこともあって1年半ほどで退職し、会社を立ち上げました。現在はクライアントである大企業のマーケティング支援を中心に、新規事業のサポート、あとは自社のサービス提供もしています。まだ社員4、5人ぐらいの小さな会社ですが、おかげさまで9期目に入ったところです。今は採用活動にも力を入れていて、経営の方に軸足を移しているような状態です。GraSPP入学が2021年で、コロナ禍の真っ只中だったので、オンライン講義を中心に授業を週2日に集中させて時間をやりくりしていますが、結構大変ですね。

—GraSPP入学のきっかけは？

自分のライフワークの1つとして、選挙関連のライターをやっています。選挙予測や選挙支援の活動をする中で、市長や知事といった首長の方々や政治家の方々と話す機会が多いんですよね。その中で、将来はより非営利や公共政策の分野で活躍したいと思うようになり、政策について学び直そうと思ったのがきっかけです。あとはコロナで新しいことに会う機会自体が極端に減った時期で、新しいことや知らないことを学ぶことに魅力を感じてGraSPPに入学しようと決めました。

—GraSPPに入学して、学生生活はいかがですか？

各分野で有名な先生も多いうえ、色々なプログラムもあって興味深いし、授業は全般的にもものすごく面白いです。自分は英語の授業を中心に受講していますが、授業の雰囲気学部の時とは全く違うことに、最初は少し驚きました。GraSPPは留学生が多いのですが、彼らのディスカッションへの参加のコミットメントってすごいんですよ。それを見ながら、自分も負けられないように入っていかな

きゃとか考えたりして、刺激を受けています。クラスメイトは専門分野に関する知見が深い人が多いので、ディスカッションはとても勉強になるし、楽しいです。しいていえば、オンライン授業が多いこともあって、クラスメイトと話す機会や接点が少ないのが残念ですね…。もうちょっと仲間が欲しいので、今も友達大募集中です(笑) スケジュールはハードですが、今年さらに頑張って、なんとか卒業を目指します！

—GraSPPでの学びを、どのように活かしていきたいですか？

GraSPPで学ぶことで、これまで曖昧だった政策のプロセスが明確になって、理解の解像度が上がった感じはしています。政治って、実務で関わるのと学問として関わるのでは違う部分があるし、そういう違いも面白いところだと思うようになりました。

公共政策の括りだけでビジネスに繋げることはなかなか難しいですが、専門性と掛け合わせることが鍵になるはずです。自分にはマーケティングやITという強みがあるので、それを活かして、マーケティング的思考で公共政策を見るといったアプローチでの働きかけをしていけたらいいなと思っていますし。マーケティング思考は何をするにも大事なので、この専門性を活かしながら、社会に貢献できるようなことしていきたいです。



「開発研究」の20年

佐藤仁 東洋文化研究所 教授

教員は本や論文を残すが、授業は残らない。履修者の記憶にうっすらとあるだけである。本や論文と同じようにエネルギーを注いできた授業の記録が何も残らないのは不公平だ。そんな勝手な論理で、過去20年間にわたり教えてきた大学院授業「開発研究」を振り返ることにした。

この授業は、開発とは何か、国家とは何か、貧困とは何か、などの大きな問いを学際的に検討する授業である。いわゆる国際開発の「そもそも論」である。戦後日本の開発経験については、特に力を入れた。海外については知っている学生も、日本について知らない学生が多いからである。授業時間の半分以上は、課題文献の予習に基づく討論である。課題文献は、論文2本程度であるが、内容が濃いので予習は最低3-4時間を要する。学生は文献の要点をまとめたメモを授業までに提出し、そのメモは授業後に学生同士で採点してもらう。討論の担当者は、毎回「問い」を用意してくるが、この問いがうまく設定できない。問いがうまく立てられると議論が締まるが、不出来な問いでも突っ込みを喚起すればそれなりの議論にはなり、議論になれば学びがある。

扱う教材は、論文や学術書だけでない。ルポや小説、映画も取り入れるようにした。フィクションのほうが、現場のリアルが伝わることが多いからである。20年間で読ませた文献の7割は同じである。同じ文献を使いまわしても、毎回読んで新鮮な感じを得る。それが古典というものだろう。教材は、学生たちが持っている開発／発展に関する先入観を揺さぶってくれるものを優先した。大牟羅良『ものいわぬ農民』（岩波新書）、シューマッハー『スモール・イズ・ビューティフル』（講談社学術文庫）などは定番である。

履修者が新領域と公共政策の学生で半分ずつになる傾向は面白い効果を生んだ。新領域の学生は往々にして現場派、フィールド派であり、公共の学生は理論派、政策派である。文化の異なる院生の討論は刺激的で、授業後のランチ会も討論の活性化に役立った。

大学の専門分化が進む中で、開発の分野も経済学、政治学、社会学などに小分けされている。私の授業では、そうした細分化に抗うかのように、多様な視点を動員し、与えられた問題の解決よりも、問題そのものを設定する力を強調してきた。最後に、通常以上の作業量をこなしてくれた歴代のTAのみなさんに、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



最後の授業直後のランチ会
(右が佐藤教授)



履修者との打ち上げ

TOPICS

2023年5月開講の社会人プログラム「経済安全保障と企業のリスク管理 特別講座」の募集要項を公開しています。

<https://www.pp.u-tokyo.ac.jp/cregg/program/special/guideline.html>

応募締切:2023年5月9日(月)17時

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

編集後記

コロナ禍でオンライン授業を強いられる日々が2年以上続きましたが、現在は留学生もほぼ全員渡日し、対面授業や学生交流が増えて学内も活気づいてきました。オンライン化により利便性が増した一方で、物理的な距離感が人と人との距離感を生むと体感した人は多いはず。今春からは、学生や教職員の笑顔が直接見られる日がさらに増えることを期待しています。(編集担当)

vol.
69 NEWS
LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2023年2月10日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>